



かめるをたしかめる
特定非営利活動法人
日本顎咬合学会

Newsletter

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

96

2025.8.25

理事長挨拶

この度、特定非営利活動法人 日本顎咬合学会第17代の理事長を拝命致しました金沢紘史と申します。

本会の進むべき方向性を含めて、会員のための学会の在り方を考える上で、会員の皆様のご信任、ご期待に応えるべく舵取り役として身の引き締まる思いです。

約30数年前に臨床歯科の研鑽のために本会に入会して一会员として学ばせて頂きましたが、これまで学術委員会・総務企画委員会・倫理委員会・プログラム委員会、及び専務職等の委員・役員として学会運営に携わさせて頂きました。学会を通して培った知見・経験をもとに今回、理事長として会員の皆様のために誠心誠意、務めさせて頂く所存です。どうぞ宜しくお願ひ致します。

さて本会は顎咬合学を名称としていますが、他の歯科系学会の様な大学の講座名にはない分野となっています。その意味する所は「顎口腔系に関する解剖・組織・生理・病理を取り扱い、診査・診断・治療計画を基礎とし、顎口腔系の治療を行う科学である」と定義づけております。

咬合は歯科の根幹であり、歯科臨床における様々な処置は咬合と密接に関連しています。咬合については幾つかの分野（補綴歯科学、矯正歯科学、歯周病学、小児歯科学等）で追究されていましたが、統合的に臨床の場のニーズに応えられるようにと言う目的で本会が設立された理由にもなっています。これらは歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士の三位一体の協働により行われることで、国民の皆様の健康な咬み合わせを予防面、育成面、再建面、維持・管理面から支えることが本学会の担うべき役割と考えます。

この顎咬合学を理念において口腔を総合的な臨床力で管理し、国民の健康を支えることを目標に、咬合を育む小児歯科、咬合を成熟させる矯正、咬合を支える歯周・歯内、失った咬合を再建する補綴、咬合を保全する予防・衛生管理、高齢者の支援など幅広い分野で職種を超えた連携で臨床力を研鑽できるように学術大会・支部学術大会・学会誌・認定研修会等を通して会員の皆様のレベルアップを目指していきます。

そして本学会会員が一丸となり、顎咬合学の基本理念を熟考し、さらなる臨床力を養いながら会員の皆様を通して国民の口腔機能の健全な育成・維持・回復に努め、全身の健康に寄与出来るよう取り組んで行きましょう。

これからも会員の皆様の様々なご意見に耳を傾け、役員一丸となって会務を執行してまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会
理事長 金沢紘史

2025年 新体制スタート



6月8日（日）第43回日本顎咬合学会学術大会後に開催された総会において、金沢 紘史 理事長の就任が承認され新年度の活動が始まりました。それを受け、7月22日（火）に、新体制人事の発表と新役員辞令交付式が行われました。翌日の7月23日（水）には、新年度第一回常任理事会、賛助会員企業との懇談会が開催され、第43回学術大会・総会にご協力いただいた賛助会員から、今大会を振り返っての反省点、また、次回大会成功へ向けての建設的なご意見をいただき、その後の懇親会でも活発な交流が行われました。



第43回日本顎咬合学会学術大会・総会
金沢 紘史 理事長（左）、貞光 謙一郎 前理事長（右）



新役員辞令交付式
松崎 浩成 次期理事長

企業懇談会



新常任理事コメント



この度、任期満了に伴い支部委員会から広報委員会へと異動してまいりました。これから広報委員会の役割をしっかりと理解し、日本顎咬合学会の活動内容を内部広報（日顎会員+歯科医療従事者）・外部広報（一般の方々）両方向の視点から、さらにより多くの方々へと周知していただけるよう、2年間微力ながら参加させていただきます。

小林 英史



この度、常任理事を拝命いたしました松木良介です。前期よりプログラム委員会筆頭副委員長を務めております。現場の声を反映した実りある企画づくりに努め、学術大会の企画運営に尽力し、会員の皆様にご満足いただけるよう精進いたします。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



この度、日本顎咬合学会常任理事並びに顎咬合学推進委員会筆頭副委員長を拝命いたしました。中部支部としては久方ぶりの常任理事輩出となり、誠に光栄に存じます。噛みつきの良い入れ歯を通じ、咀嚼機能の回復と生活の質向上に全力を尽くし、顎咬合学の魅力と価値を全国へ広めてまいります。

藤井 元宏



この度、財務委員長を拝命致しました太田拓哉です。財務委員会の役割は学会収支の予算、日顎基金の管理、将来の会員予測と財務体质の改善などを仰せつかっております。経験も実務能力も不足しておりますが、財務委員、専門委員の先生方のお力を借りて本学会の発展に全力を尽くす所存です。何卒よろしくお願い致します。



今期より、プログラム委員会副委員長、常任理事を拝命しました九州支部の松延と申します。プログラム委員会は出戻りであります、安光委員長を支えながら、学会会員が満足いくような、そして非会員が入会したくなるようなプログラム作りを目指していきたいと思っています。皆様のご協力、ご指導の程よろしくお願いいたします。

松延 允資

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 2025～2026年度 役員一覧

理事長	金沢 紘史				
次期理事長	松崎 浩成				
前理事長	貞光 謙一郎				
副理事長	音琴 淳一	関野 愉	倉富 覚、		
専務理事	岸本 英之				
常任理事	平井 順	田中 憲一	菅野 詩子	須呂 剛士	安光 崇洋
	石川 忠	勝部 義明	鍵和田 優佳里	長阪 信昌	濱 克弥
	前川 泰一	権 曜成	佐藤 勝史	谷尾 和正	中山 直樹
	山内 真人	小林 英史	藤井 元宏	太田 拓哉	松木 良介
	松延 允資				
理事	黒岩 昭弘	櫻井 健次	春藤 憲男	佐野 哲也	虻江 勝
	河原 太郎	小林 明子	小林 友貴	中山 隆司	山下 恒彦
	太田 祥一	谷本 幸司	宇根岡 大典	川内 大輔	坂田 晋也
	武井 賢郎	羽田 詩子	吉田 拓志	石幡 一樹	岩崎 貢士
	亀田 行雄	川上 清志	工藤 昌之	鈴木 宏樹	津霸 雄三
	中島 稔博	永田 一樹	福島 秀文	牧 宏佳	松島 正和
	山中 一剛				
監事	河津 寛	富野 晃	渡辺 隆史	俵木 勉	
顧問	菅野 博康	河原 英雄	小林 和一	岩田 健男	山地 良子
	鈴木 尚	南 清和	林 崇民		

第24回

咬合フォーラム in Sendai

2025.9.21 (Sun)
9:50～16:10(受付9:30)

咬合治療の原点回帰 4

どうする!? アンテリア・ガイダンス ～本当にアンテリア・ガイダンスは必要か～

「日本顎咬合学会」という学会名に特化した「咬合フォーラム」は、学術大会の内容が多岐にわたるようになり、「年に1回、丸一日かけて咬合を熱く語る日を」ということで、2000年から始まり、この度24回目を迎えます。3年前から取り組んでおります「咬合治療の原点回帰」シリーズもいよいよ中盤を超え、次回（2026年度）の「フルマウス・リコンストラクション（正式名未定）」をもって本シリーズ完結を予定しております。

シリーズ第4弾となる今回は「どうする!? アンテリア・ガイダンス～本当にアンテリア・ガイダンスは必要か～」と題して開催いたします。「必要か」と問われると、「？」と一瞬返答に戸惑うような副題となっておりますこと、重々承知しておりますが、これは、「必要・必要ではない」という0か1かを問うものではございません。過去の多くの研究から導き出され、データに基づき数値化されたものに、必ずしも当てはめていく必要があるのであろうか、という観点によるものです。

先日、座長・演者との事前打ち合わせを執り行いましたが、ご講演の概要を演者の皆様から拝聴し、また座長の「活発なディスカッションになるように」という心意気を伺いまして、より一層当日が待ち遠しく存じております。登壇順におきましても、本年は、座長・演者と共に決めるという、例年とは異なった方法を取り入れました。その結果、本来であるならば「臨床医としては長期症例から学ぶことが非常に多く、貴重な機会であるがゆえに、長期症例をご提示いただく演者には『トリ』としてご登壇いただく」ことが多い中、あえてそうではない構成となっております。杜の都仙台にて、多くの皆様とのお目文字が叶い、共に咬合を熱く語ることができますよう心より願っております。

学術委員会 委員長 菅野 詩子

プログラム

座長：吉松 繁人（吉松歯科医院）

9:50～10:00	開会式 理事長挨拶 理事長 金沢 紘史
10:00～10:20	〈講演I〉 バイオメカニクスの観点からアンテリア・ガイダンスを考察する（前半） 演者：依田 信裕（東北大学 大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野 教授）
10:20～10:25	小休憩（5分）
10:25～11:45	〈講演II〉 どう診る?! アンテリアガイダンス 演者：今井 俊広（今井歯科クリニック）
11:45～12:45	昼休憩（60分）
12:45～14:05	〈講演III〉 Anterior guidance : revisited 演者：南 昌宏（南歯科医院）
14:05～14:10	小休憩（5分）
14:10～15:10	〈講演IV〉 バイオメカニクスの観点からアンテリア・ガイダンスを考察する（後半） 演者：依田 信裕（東北大学 大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野 教授）
15:10～15:20	休憩（10分）
15:20～16:10	ディスカッション

抄 錄**〈講演 I・講演 IV〉 バイオメカニクスの観点からアンテリア・ガイダンスを考察する****依田 信裕**

YODA Nobuhiro

東北大学 大学院歯学研究科
口腔システム補綴学分野 教授

2003 年 東北大学歯学部卒業
 2007 年 東北大学大学院歯学研究科修了
 2008 年 東北大学大学院歯学研究科
 口腔システム補綴学分野 助教
 2014 年 シドニー大学歯学部客員研究員
 (~ 2016 年 9 月)
 2018 年 東北大学病院咬合回復科 講師
 2024 年 東北大学大学院歯学研究科
 口腔システム補綴学分野 教授

顎口腔系においては、機能時に咀嚼筋などの収縮力を力源として歯列上に咬合力や咀嚼力、顎関節に顎関節負荷が発現し、生体内各所にメカニカルストレスが生じる。歯の欠損等で力学的なバランスが崩壊し、顎口腔系の一部に過度なストレスの集中が生じた場合に、歯や粘膜における疼痛や炎症、さらに顎骨の吸収などが生じうる。補綴装置の重要な役割は、歯や顎の欠損により失われた力学的なバランスを回復し、咀嚼や嚥下等の機能の回復、残存組織の保全を図ることにある。すなわち、機能時に発揮される力に対し適切に対応することが補綴装置の必要条件であり、補綴歯科治療の成否を決定する重要な要件である。

補綴装置に設定されるアンテリア・ガイダンスは、顎口腔系における力のコントロールに関わる重要な補綴学的因子であり、顎関節におけるポステリア・ガイダンスと協調することでスムーズな下顎運動が営まれる。しかし、アンテリア・ガイダンスとそれに関わる様々な因子が、実際に顎口腔系における力のコントロールにどのような影響を及ぼすのか、いまだ不明な点があるのも事実である。

私どもはこれまで、歯やインプラントに加わる荷重を口腔内において三次元かつ経時的に測定する手法を開発し、さまざまな生体力学的・補綴学的因子がそれら荷重に及ぼす影響を調査してきた。本講演では、それらの実測データを基に、バイオメカニクスの観点から、アンテリア・ガイダンスを再考したい。

〈講演 II〉 どう診る?! アンテリアガイダンス**今井 俊広**

IMAI Toshihiro

今井歯科クリニック

1979 年 奥羽大学歯学部 卒業
 1979 年 原宿デンタルオフィス 勤務
 山崎長郎先生に師事
 1984 年 米国 ロサンゼルスにて
 Raymond L. Kim 先生に師事
 その間 University of Southern California にて卒後研修
 1987 年 鳥取県米子市にて
 今井歯科クリニック開業

顎関節が安定した状態 (CR) でパーティカルストップが確保されている場合、動的咬合を安定させるにはアンテリアガイダンスの確保が重要である。これら (CR で確保されたパーティカルストップとアンテリアガイダンスが確保された動的咬合) が不調和な関係では円滑な下顎運動は達成されない。とはいえ、これらが多少不調和であるからといって、日々咬合の問題で悩んでいる患者が多いだろうか。日常臨床ではほとんどの場合は問題なく補綴治療などを行っているだろう。

CR で MIP (最大咬頭嵌合位) の咬合状態になっている人は、ある論文によれば 10 ~ 14%、他の論文では 5 ~ 10% と報告されており、すなわち 85% 以上の人々は咬合学的に理想の咬合を保有してはいない。また約 95% の人は何らかの不正咬合を有しており、理想的な咬合を有している方が少ないという報告もある。それでも咬合に起因する病的な問題を訴えていない人がほとんどなのは、生体の生理的許容範囲の中であれば滞りなく習慣性の機能運動がなされているからである。

アンテリアガイダンスが確保されていなくても、患者本人は何も問題と感じていない事も多い。「不快症状がなければ正常か?」といえば「そうとは限らない」とも言える。また、咬合状態に問題がないように見えても、患者本人が色々と咬合の不快症状を訴えるため、検査してみると隠れた問題が存在すると診断された事もある。

何か問題が生じた時には正常な咬合のなんたるかを知らないと、何が正常枠からどれだけ外れているかを診断することが困難であろう。この度はアンテリアガイダンスに特化して実際に講演のなかで提示してみたい。

〈講演III〉 Anterior Guidance : revisited



南 昌宏
MINAMI Masahiro
南歯科医院

1986 年 大阪歯科大学 卒業
1989 年 本多歯科医院・木原歯科医院 勤務
1993 年 三日市南歯科 開設
2003 年 南歯科医院 開設
2006 年 医療法人皓隆会 南歯科医院 開設

歯学博士
大阪歯科大学歯科保存学講座非常勤講師
日本臨床歯周病学会 指導医、インプラント指導医
日本顕微鏡歯科学会 評議員
日本デジタル歯科学会 評議員
European Academy of Esthetic Dentistry
(affiliate member)
5-D Japan ファウンダー

『アンテリアガイダンス』といえば真っ先に頭に浮かぶのはスムーズな下顎の運動であろう。

歯科補綴学専門用語集（日本補綴歯科学会編）では『下顎滑走運動における歯の指導要素、後方の頸関節による指導要素（ポステリアガイダンス）に対する前方指導要素の意』と記されている。米国補綴学会用語集の最新版では“the influence of the contacting surfaces of anterior teeth, limiting mandibular movements”（前歯の接触面の影響により下顎の動きが制限される。）とされていて、先の日本の用語集の表現とは意味合いは少し異なっている様である。

しかし双方とも文脈から想像できるのは、咬合器に咬頭嵌合位でマウントされた模型の上下歯面（特に前歯）を合わせて、接触させながら、前方や側方などにスムーズに動かしてゆく様であろうか。もしくはポッセルトの図形や、スムーズに描記されたゴシックアーチの図を想像するかもしれない。いずれにせよ中心部からの側方（内から外への）運動である。これらは限界運動の再現であるとは言えるが、実際に起こっていることはブラキシズム様の動きと変わらないであろうと演者は考えている。

下顎の主たる動きの一つである咀嚼運動においては、下顎の歯は外側から咬頭嵌合位に入りてゆくわけであるから、先述の内から外への動きとは異なり前歯の接触面にほとんど触れることなく、咬頭嵌合位付近で上下の臼歯ではじめて接触することになる。前者と後者の動きでは、使う筋肉も同一ではない。後者は、健全歯列における咀嚼運動では、上下犬歯というよりは、むしろ上下第一大臼歯が誘導の鍵となるものと演者は考えている。

今回は、過去の症例における反省点も含めて供覧いただき、アンテリアガイダンスとそれにまつわる咬合の概念を見つめ直して再考してみたいと思う。

座 長



吉松 繁人 YOSHIMATSU Shigeto
吉松歯科医院

1995 年 広島大学歯学部卒業
同年 福岡県京都郡 松延歯科医院 勤務
1998 年 福岡県久留米市 吉松歯科医院 勤務
2001 年 福岡県久留米市 吉松歯科医院 開業

日本歯科医師会会員
日本顎咬合学会会員
日本補綴歯科学会会員
日本矯正歯科学会会員
日本デジタル歯科学会会員
日本老年歯科学会会員

第24回 咬合フォーラム 参加登録について

事前参加登録締切：2025年9月8日（月）

WEBサイトよりお申し込みください。メール、電話でのお申し込みは受付しておりません。

URL : <https://ago.ac/events-archive/kougou-forum2025/>

■ ご決済方法：クレジット決済・コンビニ決済

■ 受付期間：2025年9月8日（月）

※お支払期日は、登録期日と同日です。コンビニ決済をご希望の方、お早めにご登録ください。

※期日までに納入されない場合は申し込みが取り消しとなりますのでご了承ください。

■ 当日参加登録

参加費お支払い方法：現金精算のみ



QR コード

当日は
会員カードを忘れずに
お持ち下さい!!



■ 認定単位取得

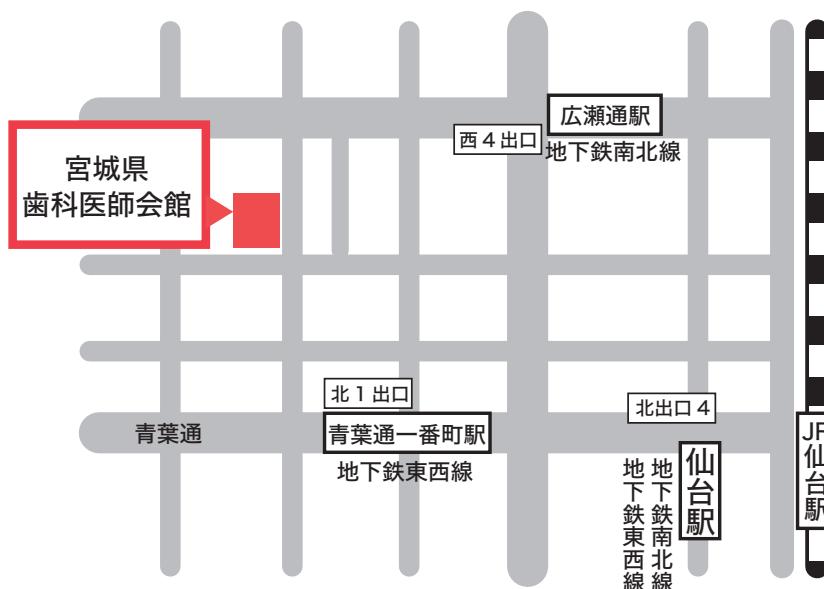
指導・認定資格取得者が対象 10 単位

■ 参加費（全て税込）

会員	歯科医師	¥5,500	非会員	歯科医師	¥11,000
	歯科技工士			歯科技工士	
	歯科衛生士	¥1,100		歯科衛生士	
	歯科助手			歯科助手	
	準会員	無料		臨床研修医・学生	¥1,100

※ご入金後はキャンセル・ご返金はできませんのでご注意ください。

■ アクセス



宮城県歯科医師会館

〒 980-0803
仙台市青葉区国分町 1-5-1
TEL : 022-222-5960
FAX : 022-225-4843

- JR・地下鉄南北線・東西線
仙台駅 北出口 4 から徒歩 20 分
- JR 仙台駅からタクシーで 5 分
- 地下鉄南北線
広瀬通駅 西4出口から徒歩 5 分
- 地下鉄東西線
青葉通一一番町駅
北1出口から徒歩 5 分

2025年度 咬み合わせベーシックセミナー

開催・参加登録受付のお知らせ

対象者

認定医および認定医を目指す一般会員歯科医師

セミナー概要

【ビデオ講義】(ビデオ講義のみの受講はできません)

【実習内容】

- ①咬合採得 ②フェイスボウ ③上顎模型マウント
④咬合採得記録トリミング ⑤下顎模型マウント ⑥咬合診査

認定単位

10単位、受講証明書の発行

定員

各地 10名

受講料

33,000円(税込み)

時間

10:00～16:50

講師：菅野博康先生・菅野詩子先生 / 本セミナー担当学術委員：牧宏佳先生

インストラクター：各支部支部長・副支部長・指導医等

2025年度「咬み合わせベーシックセミナー」スケジュール

支部 / 開催地	開催日	申込期間
北海道 札幌 和田精密歯研(株) 札幌営業所	2026年 3月15日(日)	(2026年) 1月 5日～2月 28日
東北 仙台 宮城県歯科医師会館	2026年 1月18日(日)	(2025年) 11月 5日～12月 31日
関東・甲信越 東京 日本顎咬合学会本部	2025年 12月14日(日)	(2025年) 10月 5日～11月 30日
中部 名古屋 愛知学院大学歯科技工専門学校	2026年 2月 1日(日)	(2025年) (2026年) 11月 20日～1月 16日
近畿・四国・中国 大阪 新大阪歯科技工士専門学校	2026年 3月 1日(日)	(2025年) (2026年) 12月 20日～2月 16日
九州・沖縄 福岡 福岡デンタル販売(株) 福岡本社	2025年 11月 16日(日)	(2025年) 9月 5日～10月 31日

- お申込み完了後、「タイムスケジュール(簡略版)」および「模型作成手順書」をお送りいたします。
- ご自分の上下顎歯列模型を、手順書に則って作成し、セミナー当日、必ずご持参ください。
(模型をお忘れになりますと、実習にはご参加いただけず、単位付与・受講証明書発行もありません)
- 参加登録後のキャンセルはお受けいたしかねます。また、ご入金いただきました受講料の返金もいたしかねます。
予めご了承ください。
- ご自身所属の支部会場で日程のご都合がつかない方は、他の会場でも受講いただけます。

参加登録方法

事前参加登録のみ。



左記のQRコード、または、ホームページ「咬み合わせベーシックセミナーの開催・参加登録受付のお知らせ」よりお申込ください。

2025 年度 支部学術大会

開催・参加登録受付のお知らせ

このたび支部委員会の委員長を拝命いたしました須呂剛士と申します。これから約2年間、支部の活動が円滑に行われるよう、また、支部と本部の橋渡しになれるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、私は、支部をこれまで以上に活性化させたいと考えています。なぜなら、支部の活性化こそが学会全体を盛り上げる起爆剤になると思うからです。支部の活性化とは、まず第一に支部学術大会のプログラムを充実させること、それから会員のみならず非会員の方々にも支部学術大会により多く参加していただくことです。

支部学術大会のプログラムについては、後述するように、各支部が長い時間をかけ、腕によりをかけて準備しております。これからも引き続き、充実したプログラムで参加していただいた方々にご満足いただけるよう、支部の役員の皆様と準備してまいります。なお、支部学術大会で発表された演者の方々には、ぜひ症例報告などの形で学会誌「咬み合わせの科学」へ投稿していただきたい。ご自身の発表の内容を簡単な形でも構わないので症例報告や論文にまとめるという作業からは、口頭での発表とはまた違った経験が得られると思います。

次に、私事ですが、私はこの学会に入会して臨床の様々なことについて学んできました。そして、多くの素晴らしい先輩や仲間と出会い、たくさんの刺激を受け、それが努力のモチベーションとなっています。ですから、まだ会員ではない方々を、まずは支部学術大会にお誘いください。皆さんもご存じのように本学会はとても魅力があり、パワーのある団体ですから、必ずや「日頃は面白い」と思っていただけるはずです。ひとりでも多くの歯科医療従事者の方々がこの学会に入会し、ここで学ぶことが、国民の皆様の心身の健康と豊かな人生へと結びついていくと信じておりますので、身近な方へのお声掛けをぜひお願ひ申し上げます。

さて、今年も10月から11月にかけて、全国6支部の支部学術大会が開催されます。歯科界のレジェンドや各分野のスペシャリストによる最新の知見や技術についてのご講演、新進気鋭の若手による会員発表、職種を超えたチーム医療など、各支部が趣向を凝らし、それぞれ特色のあるテーマで「臨床」の面白さ、奥深さを堪能できるプログラムを準備しております。所属している支部の学術大会はもちろん、興味のある他支部の学術大会への参加も大歓迎です。ぜひ、コ・デンタルスタッフの皆様と一緒にご参加ください。お待ちしております。

最後になりますが、令和5年10月より、厚生労働省から広告可能な資格として「補綴歯科専門医」が認証されました。この制度は国の機関である日本歯科専門医機構の指導のもと、日本顎咬合学会と日本補綴歯科学会が合同で運用しています。この制度に関しては、本部と支部が一体となって参画することが望ましいと考えております。今後、支部の皆様にもわかりやすくこの制度について説明してまいりますので、積極的なご意見やご質問を賜りたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



支部委員長
須呂 剛士

2025 年度 各支部学術大会参加登録について

事前参加登録

WEB サイトの各支部ページよりお申し込み下さい。
メール、電話でのお申し込みは受け付けておりません。
<https://ago.ac/members-and-medical-professionals/branch/>



当日は会員カードを忘れずにお持ち下さい!!

※日本歯科医師会にご所属の先生は、生涯研修登録 IC カードをお持ち下さい。

<認定単位> 指導・認定資格取得者が対象

支部学術大会出席…10 単位 ※当日参加でも 10 単位付与されます。



2025年度 支部学術大開催予定

北海道支部学術大会

開催日：2025/10/26（日）
会 場：北海道歯科医師会館（札幌）
テーマ：咬めると食事が楽しくなる！

東北支部学術大会

開催日：2025/11/2（日）
会 場：宮城県歯科医師会館（仙台）
テーマ：長期予後を見据えた
包括歯科治療の診査と診断

関東甲信越支部学術大会

開催日：2025/10/5（日）
会 場：コングレススクエア日本橋
テーマ：さあ 歯科臨床の面白い時代が
やってきた！

中部支部学術大会

開催日：2025/11/9（日）
会 場：TKP ガーデンシティ PREMIUM
名古屋ルーセントタワー
テーマ：本質を見据えた歯科臨床

近畿・中国・四国支部学術大会

開催日：2025/10/5（日）
会 場：オービックホール（大阪）
テーマ：ニチガク行コウゼ！
～臨床の本質を探る～

九州・沖縄支部学術大会

開催日：2025/11/30（日）
会 場：福岡歯科医師会館（博多）
テーマ：今、求められる歯科医療 2025

大講堂	会員発表	木村 貞仁（Dr.）、葛西 紀人（Dr.）、上野 美穂（DH）、林 俊介（DT）
	特別講演Ⅰ	高松 尚史
	特別講演Ⅱ	林 揚春 新井 達哉

5階講堂	会員発表	齋藤 友里奈（DH）、江間 大輔（DT）、菅野 雅人（DT）、 笹間 真理子（Dr.）、関口 静里奈（Dr.）、小村 圭介（Dr.）
	特別講演Ⅰ・Ⅱ	菅野 博康 町田 真吾
1F視聴覚室	歯科衛生士セッション	柿沼 八重子
B1F 地下ホール	歯科衛生士ハンズオンセミナー	柿沼 八重子

ホール C	依頼講演	小宮山 彌太郎・中村 �瑛史・山口 千緒里 【ランチョンセミナー】安斉 昌照
		清水 清恵・藤田 由衣奈
		内藤 浩司・奈良 嘉峰 【ランチョンセミナー】野村 慶太郎
ホール D	依頼講演	矢野 圭介・杉田 龍士郎
		安部 貴之・桜沢 岳芳
		小西 浩介・高瀬 直
ルーム A	依頼講演	神山 大地・上原 芳樹・長谷川 篤史
		成 仁鶴（Dr.）、久保寺 理人（Dr.）、森井 浩太（Dr.）
		生井 裕紀（Dr.）、田中 雅（Dr.）、小川 大輔（Dr.）
ルーム B	会員発表	望月 力（Dr.）、吉田 拓志（Dr.）

カンファレンス ルーム N+O	会員発表	三輪田 衛（Dr.）、阿部 公成（Dr.）・藤井 元宏（Dr.）・ 田中 翔（Dr.）、篠島 一将（Dr.）、田中 亮次（Dr.）・ 白石 大祐（Dr.）
	依頼講演	【歯周病・歯周部門】築山 鉄平・濱本 瑠美
	依頼講演	【補綴部門】熊谷 真一
カンファレンス ルーム H	依頼講演	
	依頼講演	
	依頼講演	

ホール A+B	会員発表	木村 英訓（Dr.）、西田 耕介（Dr.）、仮屋 隼一（DT） 尾崎 大祥（Dr.）、前沢 宙（Dr.）
	依頼講演	【ランチョンセミナー】花田 俊博
	依頼講演	高垣 智博
ホール C	依頼講演	林 美穂・藤本 和泉
	依頼講演	藤本 光治
	依頼講演	

大ホール	依頼講演	渡邊 祐康、大串 奈津貴、平井 友成 中島 圭治
		中尾 祐（Dr.）、梶川 聖太（Dr.）
中ホール (歯科医師・ 歯科技工士向け)	依頼講演	中野 進也・古賀 智也 廣末 将士・中原 浩介
		会員発表
		今橋 和宏（DT）
視聴覚室 (歯科衛生士向け)	依頼講演	柴原 由美子・松村 香織 吉村 聰美・吉岡 和彦【歯科衛生士向け】

最新情報はWEBサイトにてご確認ください。

第43回 日本顎咬合学会学術大会・総会 報告

2025年6月7, 8日、東京国際フォーラムにて、第43回日本顎咬合学会学術大会・総会が開催されました。2日間で、4,400名を超える多くのご参加をいただき、成功裏に閉会いたしました。

第42回・第43回大会は「顎咬合学 踏襲と発展」をテーマとして、学術と臨床の融合を目指した二年間にわたる連続的な大会とし、デジタル技術の発展とともに新たな咬合の方向性を提示しました。

また、今大会では日本補綴歯科学会との連携協定の調印セレモニーも執り行われました。今後は学会間の連携を通じて、科学的根拠に基づいた臨床医療のさらなる向上の実現を目指していきます。

【参加者内訳】

歯科医師：2,117名　歯科衛生士：841名　歯科技工士：310名　歯科助手、その他：207名
準会員、非会員研修医・学生：121名　賛助会員：130名　色彩歯科学会：4名
Family Pass、Exhibition Pass：103名　公開フォーラム：650名

講演レポート

6月7日（土）特別講演

「Interdisciplinary Design and Treatment Planning」（Dr. Florin Cofar）を聴講して

編集委員会 副委員長 羽田詩子（朝日大学歯学部 歯科補綴学分野）



Dr. Florin Cofar は、Victor Babes 大学を卒業し、現在 Timișoara (Romania) で開業・smilecloud.com の共同創設者である。

インターディシプリンアリーデザインのアプローチと治療計画について、いかにデジタル技術が多くの歯科治療の可能性を拓いてきたかについて講演した。その講演内容の一部をご紹介したい。

先天的に側切歯が欠損している、矯正、インプラント、補綴の専門分野が必要なケースを提示し、良い治療結果を得るために最初に必要なのは、治療に関わる全ての人が患者を同じ角度から見て、同じ問題として捉えること (Singular Design) であり、それは記録に始まり、中央化されたシステムが必要であること示した。

インターディシプリンアリーでは、過去には矯正治療が終わってからインプラント埋入を行っていたケースも、現在では矯正中にインプラントを埋入することがある。そのためには基準のデザインがなければ評価することができない。矯正治療中の歯列は動いているため現状と設計から、インプラントを正しい時期に正しい位置に埋入する決定をしなければならない。その後、スペースを作つて最終補綴物を提供することができる。

オールセラミッククラウンの治療で、2013年頃に行われていたレイヤリングはあまり行われなくなり、モノリシックが主流となってきた。それは、レイヤリングができるアーティストが減っていること、それぞれのテクニシャンのスタイルが異なり、理想の結果が得られないことがあるが、モノリシックは材料が改良され、90%が同じ材質で99%同じ結果を得ることができるからである。中切歯1本の治療で

あれば光の透過性も重要であるが、それ以外のケースでは審美的に重要なのは形態と予知性であると考える。

さらに、モノリシックで良い結果を得る条件としては、条件①均一な厚みが必要、条件②基質の色（変色した支台歯は変色部分を取り除いてコンポジットなどでブロック）であるが、アナログではセラミストが支台歯の色を考えるが、デジタルではデンティストが支台歯の色をコントロールする必要がある。

Frank Spear の Smile Design が人気の時代があり、それは Facially Generated Treatment Planning まず中切歯の位置から決めるという概念である。審美的ルールに基づき、最適な中切歯のサイズ・比率など、いつも同じルール、全員が同じものを選ぶ、いつも同じことをするというのが問題で、作品を見ればテクニシャンが分かるようになった。

どのように自然なアнатミーを活用し、モノリシックにコピーするかについて 2017 年に Dr. Florin Cofa は『RAW work Flow』を出版した。スマイルクラウドなどの優れたテクノロジーがある場合、カギとなるのはライブラリーで多くの患者の歯をスキャンしたナチュラルなアнатミーの形態が必要である。例えば中切歯であれば 3 ~ 4 のアнатミーの形態が選びそれを使ってモノリシッククラウンを製作する。

審美で重要なことは 2 つある。

- ①主観性 Subjective (患者が気に入らなくてはいけない)
- ②実現可能性 Feasible (患者が希望することが実現可能であるか)

複雑な症例でデザインを患者に見せたいがデザインができない、例えば対象となる歯が唇側傾斜しているため材料を足すのではなく削らなくてはいけない場合は、スマイルクラウドと AI を使うことにより解決できる。写真を撮ると AI は動画に変えてくれて Before/After を 5 分以内に示すことができ、ビジュアルで計画を見せることができる。デザインのプロセスは一部だけ解決するだけでなく、歯列弓全体のことを考える必要がある。1/4 頸にだけ問題があった場合でも反対側のレベリングが必要である。解剖を考え適切なできるだけ現実的な治療計画をたてないといけない。

最後に Dr. Florin Cofar は、自身の経験からテクノロジーで解決できることはたくさんあるとして以下のようにまとめた。

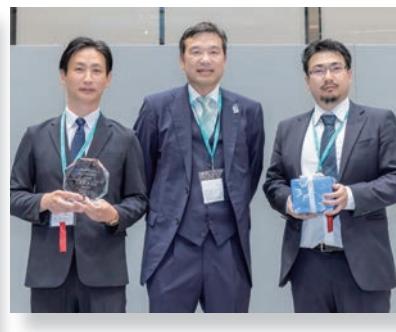
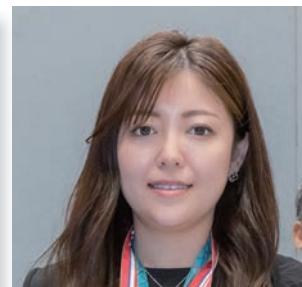
- ①全てを視覚化できる：例えば患者との会話を Smile design, AIなどを使って短時間で可視化できる。
- ②考え方を変えなくてはいけない：ダウンストリームだけではなくアップストリームでもデザインする必要がある。アップストリームのデザインが治療を主導する。
- ③チーム全員が同じものを見る：人によって成功の基準が違う。対話が必要。レファレンスなくして治療はできない。

この講演を通じて、「インター・ディシプリンアリーの重要性」「デジタルと AI からできるデザインとプランニング」について学ぶことができた。また、審美修復治療には、「主観性：患者が気に入らなくて受け入れること」「実現可能性：患者の希望が実現可能であること」を考えてプランニングすることが重要であることを改めて確認することができた。



第 43 回 学術大会 表彰者一覧

2024 年度学会誌優秀論文賞	
大谷 有希（歯科医師）	
第 42 回学術大会優秀発表者（口演）	
佐藤 貞雄（歯科医師）	大林 匠（歯科医師）
奥田 雅代（歯科医師）	田ヶ原 昭弘（歯科医師）
鈴木 宏樹（歯科医師）	村上 大志（歯科技工士）
上田 愛佳（歯科医師）	中江 円（歯科衛生士）
西垣 奏一郎（歯科医師）	池内 有香（歯科衛生士）
大門 茂（歯科医師）	
第 42 回学術大会優秀発表者（ポスター）	
川里 邦夫（歯科医師）	田島 慶二（歯科技工士）
野口 三智子（歯科医師）	金川 文香（歯科衛生士）
藪 健一郎（歯科医師）	
メーカー賞	
林 聰一（歯科医師）	カボ・プランメカ賞
市村 修一（歯科技工士）	モリタ賞
高橋 持賀子（歯科衛生士）	ヨシダ賞
中島 航輝（歯科医師）	ジーシー賞
星野 佑典（歯科医師）	
矢澤一浩賞	
阿部 公成 (中部支部)	奥田 雅代 (近畿・中国・四国支部)



理事長退任のご挨拶

日本顎咬合学会に感謝



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

前理事長 貞光 謙一郎

このたび、任期満了に伴い、日本顎咬合学会理事長を退任の運びとなりました。在任中は、会員の皆様より多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

この2年間、日本顎咬合学会が学術団体として更なる充実を図るべく、「学会雑誌の質の向上」に取り組んでまいりました。その一環として現在、特別企画「咬合を究明する」を『日本顎咬合学会誌 咬み合わせの科学』にて連載しております。日常臨床において咬合を科学的根拠に基づいて捉えることの難しさに鑑み、対談形式や症例報告、論文形式など多角的なアプローチで顎咬合を掘り下げました。ぜひ

今後の執筆や臨床における参考文献としてご活用いただければ幸いです。

学術大会におきましては、「顎咬合学 踏襲から発展へ」を2力年にわたるテーマとして掲げ、ナソロジーの伝統を継承しながらも、デジタル化の進展に対応した新たな咬合概念への進化を探求してまいりました。「臨床咬合指標」の提示は、今なお本学会の重要な使命であり、会員の皆様にもその意義をご理解いただけたものと確信しております。

また、「学術と臨床の融合」の重要性に鑑み、2025年5月17日には日本補綴歯科学会第134回学術大会にて、両学会の連携調印式を執り行い、続く2025年6月7日の第43回日本顎咬合学会学術大会では調印セレモニーを開催いたしました。これにより、両学会の連携が正式に始動し、より科学的根拠に基づく歯科医療の提供が国民の皆様へ還元されることを期待しております。

さらに本学会は、「医療と医業の充実」を掲げ、三位一体、いや四位一体の協力体制を目指しております。臨床現場におけるコ・ワーカーとの連携を一層強化し、彼らの社会的・経済的地位の向上を図ることも、私たち臨床家の責務であると考えております。これについても、会員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本顎咬合学会は、臨床家のための最大規模の歯科学会として、今後も存続意義を深めつつ発展していく所存です。「歯科医学を志す者は、すべからく咬合学を修めるべし」（保母須弥也先生）とのお言葉を胸に、咬合の診査・診断をさらに追究し、臨床の質の向上に貢献できることを強く願い、一生涯「かめる」口腔内を守ることを我々の使命であると考える次世代の先生方に期待しております。

今後とも本学会の活動に変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

Informations

WEB 会員システムに関する大切なお知らせ

住所・連絡先などの登録情報の確認・修正、認定資格・単位取得状況確認だけではなく、**学術大会等の研修会の申込を web 上のマイページにて行っていただけます。**大会の参加登録にはマイページへのログインが必要となります。必ず一度ログインし、情報の更新にご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

メールマガジン 会員募集中

メールマガジンでは、「日本顎咬合学会学術大会・総会」、「咬合フォーラム」、「支部学術大会」や「指導医研修会」、「認定研修会」など、最新情報を配信しております。
ぜひメールマガジンにご登録ください！

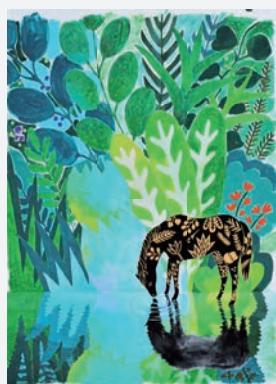
メールマガジン登録方法

会員ページにログイン後、詳細情報確認よりご登録情報が確認できます。メールマガジン配信「可」となっているかご確認ください。未設定の場合は、「会員情報を変更する」よりご変更ください。

会員ログイン URL : https://ago-sys.net/PMMS_AGO/U01/U010101



会員ログイン
QR コード



表紙絵 小林 真理江
Kobayashi Marie

小林真理江ホームページ
<https://kobayashimarie.com/>



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 News Letter 96

発行日：2025年8月25日

発行者：金沢 紘史

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス201

TEL: 03-6683-2069 FAX: 03-6691-0261 E-mail: nichigaku@ago.ac